

# 論点 平和希求の理念貫く



スポーツは社会との関わりの中で活動する文化で、社会からは切り離せない。ゆえに軍事侵攻のような人道上許されることが生じると、市民も巻き込まれてしまう。アスリートも特別視されるわけではないという状況が、顕在化した事例とも言える。

ロシアやベラルーシの選手が大会に出場できないのは極めて残念だ。異常な状況だが、それだけ非常事態に陥っている証でもある。そのためIPCは「中立選手」として扱うのではなく、態度を明確に示す必要

## 日本福祉大准教授 竹村 瑞穂氏

があった。ある意味、両国の選手も被害者で、市民にも影響を及ぼしかねないからこそ、このような暴力は絶対に許してはならない。

五輪やパラリンピックは単にパフォーマンスを競う競技会ではなく、究極的には平和を希求するという崇高な理念がある。形骸化しないためにも、必要なメッセージを明確に送るのは大切なことだと思う。

今回の事態は政治的な問題という枠を超え、正義や善といった倫理にも関わる。五輪やパラリンピックの掲げる世界平和を求める理念が揺らぐことはあってはならない。その姿勢を貫き、今後に生かすべきだ。

【聞き手・村社拓信】